

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176400323		
法人名	株式会社 萌福祉サービス		
事業所名	グループホームはぼーれ1号館		
所在地	苫前郡羽幌町栄町111番地		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0176400323-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成30年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「そこまでやるか」をやってみる・「喜びのサイクル」をつくる・人としての「在り方」を大事に思う介護・「笑顔」がないと、価値がない・「命の尊さ」と命がけて向きあう・「イメージ」で語らない、介護を・「まじめである」は、MOEの美学だ・「世界のスタンダード」として、牽引し続ける 8ヶ条を行動指針としています。

グループホームはぼーれは、平屋造りで1フロアの中にグループホーム2ユニットとデイサービスがあり、デイサービス利用者様や地域の方々との交流の場として機能しております。協力医療機関である道立病院が隣にあり、訪問診療を実施し協力体制が図られ医療面で安心出来る様努めています。会社独自のパートナーシップ制度を継続することで、利用者様お一人ひとりにしっかりと目を向けることにより、利用者様やご家族の叶えたい思いや要望に耳を傾け、理解し実践する姿勢を職員一人ひとりが持ち、これにより利用様が豊かな生活を送る事が出来るよう取り組んでおります。パートナーシップ制度を用いることにより、利用者様の生きがいの創出、パートナーを含め職員全体のやりがいの創出に繋がっています。

道立羽幌病院に隣接して、デイサービスセンターを併設している平成16年10月開設の木造平屋建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。一人ひとりのその日の希望に沿って、外食ツアーやお花見、散歩や買い物など戸外に出かけられるよう支援に努め、苫前町の風車祭りや羽幌神社祭りの屋台見物、バラ園や文化祭見物など普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。また、幼稚園児の慰問や毎年、「はぼーれ祭り」を開催して、家族や地元の人々、子供たちとの交流の機会を設けたり、個別誕生会や敬老会の開催、お好み焼きパーティーや野外バーベキューを開催して、気分転換や楽しみごとへの支援をしている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社の企業理念、介護理念、会社独自の行動指針8ヶ条を掲げ事業所独自の年間目標を掲示すると共に、朝礼時や会議時に唱和し、職員は常に意識を持ち実践に繋がっています	地域密着型サービスの意義を踏まえ介護理念を作り、朝礼時等に唱和して職員間で共有し、その理念を実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事など積極的に参加し、事業所の催事にも地域の方々に参加して頂き交流を深めています。老人会やお話会、幼稚園、太鼓等慰問もあり交流を持っています。	幼稚園児の慰問や毎年、「はぼ～れ祭り」を開催して、家族や地元の人々、子供たちとの交流の機会を設け、地域の人々との交流に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ご家族様に認知症の理解をその都度お話し理解いただいています。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状の報告や事業所での取組等を報告し、話し合いを持ちサービス向上に繋げる取り組みを行っています。	運営推進会議を定期的に開催して、日常生活の様子や感染症対策など具体的内容について話し合い、そこでの意見等をサービス向上に活かしている。今後は、家族の参加が増えるように検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護更新認定時、または入所相談等で事業所での実情やサービスに対する取り組み方を具体的に伝え意見を交換し協力関係を築いています。	町担当者とは、日常業務について情報交換を行い、助言や指導等を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の勉強会を行い、毎月のミーティングで個々のリスクマネジメントを行い確認しています。身体拘束をしない介護を常に心がけ、心理的、環境面でのアプローチを行い、身体束縛はありません。	高齢者虐待防止や身体拘束廃止等の内部研修を開催して、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会を行っています。毎月のミーティングで、虐待が見逃されることがないように確認しています。不適切ケアが虐待に繋がらないよう職員が正しく認識し虐待行為のないケアを実践しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当する入居者はありませんが、羽幌町地域包括支援センターと連携・協力して行っています。職員は、日常生活支援事業、成年後見制度については理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時又は、解約時は、十分に説明を行っています。その際は、必ず利用者様、ご家族様の疑問点や意見等を伺い、十分な説明を行い理解、納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様に相談窓口をお知らせしています。ご意見箱を設置し面会時などに利用者様、ご家族様のご意見、ご要望をお聞きし、優先し運営向上に反映させています。	法人独自の家族アンケートを実施して、意見や要望等を言い表せる機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように取り組んでいる。また、家族懇談会を開催している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談等、職員との話をする機会を設け、職員の意見・提案等を聞きながら対応するようにしています。また、内部監査室を設け職員からの意見を吸い上げ運営に反映するように努めています。	職員アンケートや個人面談の実施等で職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見やアイディア等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務体制、職員間で確認、話し合いを行った後、意見を取り入れています。パートナーシップ制度を用いて職員のやりがいに繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修の機会を設け、個々が無理なく行えるよう会社独自の研修用のDVDを作成しスキルアップを働きながら向上心を持って臨んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	ネットワーク作り、または外部研修会等での参加し同業者との交流をもち意見交換などを行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	萌福祉サービスのパートナーシップ制度を活用し、利用者様が安心する関係を持っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に利用者様の事を把握するために、ご本人様の困りごとや不安なことを傾聴し、その情報をご家族様とも共有し早く慣染んで頂ける関係を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に担当ケアマネが必要としている支援を見極め、介護方針指示書を更新しながらサービスの質の向上を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の想い、価値観を尊重し、自分で出来ることは見守り、それぞれに役割を持って頂き、お互いに助け合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報を共有しご家族様とのご意向を反映しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の中で今まで生活してきたことを理解し、利用者様の要望に地域の公共の場に出向いています。	友人・知人の来訪支援や帰宅等への支援、地域の行事参加や買い物等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション参加の声掛け、日常での洗濯物を畳む、食器を拭く等のお手伝いの調整を行い、利用者様同士が関わり合いお一人おひとりが孤独にならないよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も受け入れ先の相談援助や支援を行なっています。退居後においても相談等の支援を行なっています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パートナーシップ制度に基づいて利用者様の意向の把握に努めますが、認知症のため意思表示が困難な利用者様には毎日の状況の中から要望を導き出し応えるようにしています。	一人ひとりのアセスメントの実施で、生活歴や趣味嗜好の把握に努め、職員間で情報の共有を行い、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報、ケアマネジャーからの情報により把握しています。職員全員が理解して利用者様の介助を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	パートナーシップ制度に基づく利用者様の情報を全職員が共有して実践しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様には、日頃の関わりの中で想いや意見を聞き反映させるようにしています。アセスメントを含めスタッフ全員でモニタリング、カンファレンスを行っています。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見や要望、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を掲示板で伝達し共有しています。介護方針指示書、介護計画に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様からの相談や要望等、常時受け付け意向に応えるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問や地域の催しに作品出展で参加し、利用者様の生きがいや楽しみに繋がるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	道立羽幌病院と訪問受診契約を結び利用者様の待ち時間の軽減、身体的、精神的負担を減らし訪問受診を受けています。	道立病院が隣接していて、病院との連携や通院への支援、日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は情報や気づきを看護職員に報告相談し、適切な指示のもと利用者様を支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医師、看護師と確認を行いながら利用者様の状況を確認のもと職員に伝達して状況を伝達しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	早い段階から医師やご家族様等の話し合いの場を持ち、事業所で出来る事と出来ない事等の見極めを行い、今後の変化に備えての検討支援に取り組んでいます。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、緊急時に応急手当処置を行える様に実践できる体制を整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害には職員がマニュアルに基づいて行動ができるように、地域、道立羽幌病院、役場などに協力を得て連携を取っています。	地域の協力を得て、年2回の火災避難訓練、自主避難訓練を行っている。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検の実施をしている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様にわかりやすく丁寧な言葉でゆっくりと話しかけ、尊厳を尊重する言葉かけで全職員で対応しています。	接遇等の内部研修会開催で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりの中で、常に伺い言葉掛けで利用者様が思いや希望を表現出来やすいよう対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	パートナーシップに沿ってお一人おひとりの日常の過ごし方を優先する声掛けを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、更衣時に利用者様がご希望をお聞きし、季節に合わせた支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者様と一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気での食の楽しみを作っております。下膳や食器拭き等個々の力を活かし活動に繋げています。	一人ひとりの力や生活歴を活かして、食事の準備や後片付け等を職員と一緒にしている。また、個別誕生会や敬老会の開催、お好み焼きパーティーや野外バーベキューを開催して、気分転換や楽しみごとへの支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの病歴を把握し、食事や水分、摂取量、栄養面での管理を一日通して確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の状態に合わせ口腔ケアを促し、清潔の保持をしています。夜間は義歯をお預かりし消毒を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態に合わせて、トイレでの排泄を行っています。日中はリハパンから布パンに着かえたり、自立に向けた利用者様の排泄支援を行っています。	一人ひとりの力や排泄のパターンを排泄チェック表で把握して、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、水分の促し、整腸剤を服用して頂き、利用者様の排便サイクルを把握しています。排便サークルを把握し、看護師に指示を仰ぎ対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	お一人おひとりのご希望や入浴時間を聞き取り、好みの湯加減、お風呂の順番等を脱衣場に掲示し利用者様に合わせた入浴を行っています。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて柔軟な入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも対応した柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に合わせてお昼寝の促し、利用者様のご希望で頂いています。就寝時間は利用者様の生活スタイルや状況に合わせて、個々に対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の担当がお薬の効用を理解し、お薬の変更があった場合は、情報を共有し行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様は毎日、食器拭き、ホールの掃除、洗濯ものをたたむことで、役に立っていることを実感し率先してお手伝いをしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かける要望に添う外出支援を行っています。(美容室、床屋、買い物、墓参りなど)季節ごとに戸外に出る機会を設けています。	一人ひとりのその日の希望に沿って、外食ツアーやお花見、散歩や買い物など戸外に出かけられるよう支援に努め、苫前町の風車祭りや羽幌神社祭りの屋台見物、バラ園や文化祭見物など普段は行けないような場所でも、出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自らお金を管理して自動販売機でジュースを買っている方がいますが、ほとんどの方はお金を自己管理できません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が自ら電話をしたいと依頼することもありますので、必ず電話を取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者様にとって不快なく清潔に過ごして頂けるよう掃除を徹底し、明るくし、一日4回に温度、湿度を確認し、カレンダーなどを掲示し季節感を取り入れています。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また共用空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真が掲示されるなど、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士がソファ席に座り、会話をしたり、和室の静養室などで利用者様同士で会話出来るスペースを確保しております。玄関先でベンチに座り日光浴をしながらゆっくりして頂く事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が馴染みの物を居室に置き、好みに合わせたお部屋になっております。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はトイレ、洗面所などを分かりやすく、安全に利用者様が不快なく生活ができています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176400323		
法人名	株式会社 萌福祉サービス		
事業所名	グループホームはぼ〜れ2号館		
所在地	苫前郡羽幌町栄町111番地		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0176400323-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「そこまでやるか」をやってみる・「喜びのサイクル」をつくる・人としての「在り方」を大事に思う介護・「笑顔」がないと、価値がない・「命の尊さ」と命をかけて向きあう・「イメージ」で語らない、介護を・「まじめである」は、MOEの美学だ・「世界のスタンダード」として、牽引し続ける 8ヶ条を行動指針としています。

グループホームはぼ〜れは、平屋造りで1フロアの中にグループホーム2ユニットとデイサービスがあり、デイサービス利用者様や地域の方々との交流の場として機能しております。協力医療機関で道立病院が隣にあり、訪問診療を実施し協力体制が図られ医療面で安心出来る様努めています。会社独自のパートナーシップ制度を継続することで、利用者様お一人ひとりにしっかりと目を向けることにより、利用者様やご家族の叶えたい思いや要望に耳を傾け、理解し実践する姿勢を職員一人ひとりが持ち、これにより利用様が豊かな生活を送る事が出来るよう取り組んでおります。パートナーシップ制度を用いることにより、利用者様の生きがいの創出、パートナーを含め職員全体のやりがいの創出に繋がっています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社の企業理念、介護理念、会社独自の行動指針8ヶ条を掲げ事業所独自の年間目標を掲示すると共に、朝礼時や会議時に唱和し、職員は常に意識を持ち実践に繋げています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事など積極的に参加し、事業所の催事にも地域の方々に参加して頂き交流を深めています。老人会やお話会、幼稚園、太鼓等慰問もあり交流を持っています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ご家族様に認知症の理解をその都度お話し理解いただいています。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状の報告や事業所での取組等を報告し、話し合いを持ちサービス向上に繋げる取り組みを行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護更新認定時、または入所相談等で事業所での実情やサービスに対する取り組み方を具体的に伝え意見を交換し協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回の勉強会を行い、毎月のミーティングで個々のリスクマネジメントを行い確認しています。身体拘束をしない介護を常に心がけ、心理的、環境面でのアプローチを行い、身体束縛はありません。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会を行っています。 毎月のミーティングで、虐待が見逃されないよう確認しています。不適切ケアが虐待に繋がらないよう職員が正しく認識し虐待行為のないケアを実践しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当する入居者はありませんが、羽幌町地域包括支援センターと連携・協力して行っています。職員は、日常生活支援事業、成年後見制度については理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時又は、解約時は、十分に説明を行っています。その際は、必ず利用者様、ご家族様の疑問点や意見等を伺い、十分な説明を行い理解、納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様に相談窓口をお知らせしています。ご意見箱を設置し面会時などに利用者様、ご家族様のご意見、ご要望をお聞きし、優先し運営向上に反映させています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談等、職員との話をする機会を設け、職員の意見・提案等を聞きながら対応するようにしています。また、内部監査室を設け職員からの意見を吸い上げ運営に反映するよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務体制、職員間で確認、話し合いを行った後、意見を取り入れています。パートナーシップ制度を用いて職員のやりがいに繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修の機会を設け、個々が無理なく行えるよう会社独自の研修用のDVDを作成しスキルアップを働きながら向上心を持って臨んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	ネットワーク作り、または外部研修会等での参加し同業者との交流をもち意見交換などを行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	萌福祉サービスのパートナーシップ制度を活用し、利用者様が安心する関係を持っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に利用者様の事を把握するために、ご本人様の困りごとや不安なことを傾聴し、その情報をご家族様とも共有し早く慣染んで頂ける関係を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に担当ケアマネが必要としている支援を見極め、介護方針指示書を更新しながらサービスの質の向上を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の思い、価値観を尊重し、自分で出来ることは見守り、それぞれに役割を持って頂き、お互いに助け合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報を共有しご家族様とのご意向を反映しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の中で今まで生活してきたことを理解し、利用者様の要望に地域の公共の場に出向いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション参加の声掛け、日常での洗濯物を畳む、食器を拭く等のお手伝いの調整を行い、利用者様同士が関わり合いお一人おひとりが孤独にならないよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も受け入れ先の相談援助や支援を行なっています。退居後においても相談等の支援を行なっています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パートナーシップ制度に基づいて利用者様の意向の把握に努めますが、認知症のため意思表示が困難な利用者様には毎日の状況の中から要望を導き出し応えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報、ケアマネジャーからの情報により把握しています。職員全員が理解して利用者様の介助を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	パートナーシップ制度に基づく利用者様の情報を全職員が共有して実践しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様には、日頃の関わりの中で想いや意見を聞き反映させるようにしています。アセスメントを含めスタッフ全員でモニタリング、カンファレンスを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を掲示板で伝達し共有しています。介護方針指示書、介護計画に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様からの相談や要望等、常時受け付け意向に応えるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問や地域の催しに作品出展で参加し、利用者様の生きがいや楽しみに繋がるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	道立羽幌病院と訪問受診契約を結び利用者様の待ち時間の軽減、身体的、精神的負担を減らし訪問受診を受けています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は情報や気づきを看護職員に報告相談し、適切な指示のもと利用者様を支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医師、看護師と確認を行いながら利用者様の状況を確認のもと職員に伝達して状況を伝達しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	早い段階から医師やご家族様等の話し合いの場を持ち、事業所で出来る事と出来ない事等の見極めを行い、今後の変化に備えての検討支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、緊急時に応急手当処置を行える様に実践できる体制を整えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害には職員がマニュアルに基づいて行動ができるように、地域、道立羽幌病院、役場などに協力を得て連携を取っています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様にわかりやすく丁寧な言葉でゆっくりと話しかけ、尊厳を尊重する言葉かけで全職員で対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりの中で、常に伺い言葉掛けで利用者様が思いや希望を表現出来やすいよう対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	パートナーシップに沿ってお一人おひとりの日常の過ごし方を優先する声掛けを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、更衣時に利用者様がご希望をお聞きし、季節に合わせた支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者様と一緒に食卓を囲み、家庭的な雰囲気での食の楽しみを作っております。下膳や食器拭き等個々の力を活かし活動に繋げています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの病歴を把握し、食事や水分、摂取量、栄養面での管理を一日通して確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の状態に合わせ口腔ケアを促し、清潔の保持をしています。夜間は義歯をお預かりし消毒を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態に合わせて、トイレでの排泄を行っています。日中はリハパンから布パンに着かえたり、自立に向けた利用者様の排泄支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、水分の促し、整腸剤を服用して頂き、利用者様の排便サイクルを把握しています。排便サークルを把握し、看護師に指示を仰ぎ対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	お一人おひとりのご希望や入浴時間を聞き取り、好みの湯加減、お風呂の順番等を脱衣場に掲示し利用者様に合わせた入浴を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に合わせてお昼寝の促し、利用者様のご希望で頂いています。就寝時間は利用者様の生活スタイルや状況に合わせ、個々に対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の担当がお薬の効用を理解し、お薬の変更があった場合は、情報を共有し行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様は毎日、食器拭き、ホールの掃除、洗濯ものをたたむことで、役に立っていることを実感し率先してお手伝いをしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かける要望に添う外出支援を行っています。(美容室、床屋、買い物、墓参りなど)季節ごとに戸外に出る機会を設けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様自らお金を管理して自動販売機でジュースを買っている方がいますが、ほとんどの方はお金を自己管理できません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が自ら電話をしたいと依頼することもありますので、必ず電話を取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者様にとって不快なく清潔に過ごして頂けるよう掃除を徹底し、明るくし、一日4回に温度、湿度を確認し、カレンダーなどを掲示し季節感を取り入れています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士がソファ席に座り、会話をしたり、和室の静養室などで利用者様同士で会話出来るスペースを確保しております。玄関先でベンチに座り日光浴をしながらゆっくりして頂く事もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が馴染みの物を居室に置き、好みに合わせたお部屋になっております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はトイレ、洗面所などを分かりやすく、安全に利用者様が不快なく生活ができています。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム はぼ〜れ

作成日: 平成 30年 2月 5日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	12	介護職員が高齢化してきている為、業務の流れが単調化してきている。	人材育成を行い職員の若返りをはかる。若い人材の就労人口が少ないが、人材育成を行う職員の若返りを図る。	近隣の人に声を掛けたり、介護の仕事を理解してもらうような取り組みを行っています。	12か月
2	16	運営推進会議に参加する家族が少ない。	推進会議の参加者が増え、色々な意見や要望を伺い運営に生かす事が出来る。	・ご家族が参加しやすい曜日や時間を確認し、郵送での案内文章だけでなく、電話での参加の呼びかけを実施する。 ・ご家族が来訪時に会議の必要性を説明し、参加を呼びかけ、会議の充実に努めます。 ・今後は、入居契約時にも参加を意識できるよう説明致します。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。